

2012年12月6日

「健康課題の発見と包括的な管理スキームの構築」

株式会社野村総合研究所

コンサルティング事業本部 健保経営タスクフォース

主任コンサルタント 林 倫照

1. 株式会社野村総合研究所では、**2007**年より健診・レセプトデータ分析のノウハウを蓄積しつつ、単に分析だけに留まらず、健康保険組合を中心とした保険者様のご要望にお応えするために、経営コンサルティングから明らかになった課題に対する実行支援を実施してまいりました。
2. 本報告では、産業医、保健師、管理栄養士など医療・保健分野に関わられている皆様に対し、経済・産業と言った側面から、一般企業および健康保険組合の組織的な現状と課題および本テーマに関する取り組みについて、お話しさせていただきます。今後の皆様の活動のご参考になれば幸いです。
3. 健康保険組合および一般企業における健康意識の高まり
  - (ア) 健康保険組合では、**2008**年に施行された特定健診・保健指導プログラムをきっかけに予防医療に対する意識が向上しております。プログラムの中間評価年度である**2010**年度のアンケート調査では、多くの健保組合が制度動向に関わらず、生活習慣病予防に向けた取り組みを継続していく意向を示されました。
  - (イ) 一方で、**2008**年度から、より負担が大きくなった前期高齢者拠出金と医療費の継続的な高騰により、健保組合の財政は苦しくなる一方であり、料率を継続的にアップさせざるを得ない健保組合が続出している状況になっております。
  - (ウ) この健保組合の財政難は、不景気の波からなかなか抜け出せない日系企業に大きな経済的打撃を与えることになり、近年、一般企業において、健保組合の経営状況に対する関心度合いが高まりを見せております。
  - (エ) 加えて、生活習慣病を中心としたいわゆる“働き続けられる慢性疾患”患者が増加することで、労働生産性などの経営課題としても従業員の健康が重要視され始めました。

#### 4. 健康意識の高まりに、実行性を持たせた健康診断とレセプトデータの電子化

(ア) 健診およびレセプトデータの電子化により、健康課題の定量的把握が可能となりました。これまで、現場担当者が訴え続けた実状に対し、定量的な根拠が加わることで、現場担当者間だけでなく、健保組合管理者および事業主の経営陣など関係者への問題意識の共有がやりやすくなりました。

(イ) 加えて、健診・レセプトデータが、定期的と同じフォーマットで同じ運用ルールのもとに管理できるデータであることから、健保組合加入者（被保険者と被扶養者）に対して実施している各種健康施策の定点評価も可能になりました。

(ウ) 健康保険組合は、このデータを保有する唯一の期間として、事業主側や保健施策を実施、協力する関係者に対し、健康課題や施策の見直し提案ができるようになりました。

#### 5. NRI の考え方

(ア) 健康課題の把握と把握した課題に対する包括的施策の管理スキームについて、奇策はありません。①高リスク者を抽出して、②メリハリの付いた施策を特定された対象者に対して、徹底的に実施することです。その上で、③やりっぱなしにせず評価・振返りを行い、次に繋げていくことができることだと考えます。

(イ) 言葉にすると、当たり前の3つのステップですが、実際に運用する上で、NRI では①疾病リスクだけでなく、生活習慣を意識した対象者の抽出、②定量データによる管理運用スキームの設計、③医療費予測シミュレーションを用いた経済効果推計を実施し、多くの関係者で共有・納得を得られるように、そして、次年度以降にしっかりとノウハウを蓄積・反映できるように、スキーム構築を行っております。

#### 6. 最後に

(ア) 報告では、多少ではありますが、事例を交えながら、NRI の取り組みを紹介させていただきます。